

中山間地域 暮らしつながるシンポジウム

令和6年度やまぐち元気生活圏づくり協働支援事業

NPO 法人市民プロデュース

〒753-0074 山口市中央3-6-1-2F

TEL 083-932-4919

FAX 083-932-4929

Email shiminproduce@gmail.com



日時：2024年9月29日（土）13:00～16:00

場所：山口県セミナーパーク 大研修室

参加人数：61名

9月29日（日）『中山間暮らしつながるシンポジウム』を開催しました。関係人口を主テーマに掲げ、基調講演とトークセッションを実施。本来の関係人口の意味・意義に立ち返るとともに、地域の暮らしや活動とのつながりにも思いを巡らせることができました。ご参加くださった皆さま、ありがとうございました。

基調講演 地域の可能性をひらく関係人口論



田中 輝美さん

ローカルジャーナリスト
鳥根県立大学地域政策学部准教授

- 人口減少は課題ではなく前提。減少によって何が困るのか？
- 地域の変化+若い世代の変化が新しい流れを生む。
- 人口減少時代となり、鳥根県は先行地域になった。過疎地が日本の未来をつくる。
- 生まれた場所をふるさとと思えない「ふるさと難民」。ふるさと＝つながりに憧れがある。
- 人口が少ない＝自分の存在感が大きいということ。
- 若い世代は旅と移住の「間」を求めている。
- 地方の「心の過疎化」こそが問題。増加・成長が良いことという社会のまなざしを受けた結果。
- 移住・定住合戦。ゼロサムゲームだけをやっていても未来は開けない。
- 「交流・観光」「移住・定住」しかないことが課題。継続的に関わる＝関係人口を加えた三本柱へ。
- お客さんをつくりたいか、一緒にはたらく仲間をつくりたいのか。一緒にかいた汗が愛着をつくる。
- 現地に通わなくてもできる関わり方のパターンを増やす。
- 地域再生主体の形成。地域の人が、もう一度がんばろうと思える。
- 関係人口で限られた担い手をシェア・共有する。
- 関係人口は、移住・定住を増やすための手段ではない。
- 地域のために頑張っている大人は強力なコンテンツ。一緒にがんばることで課題は解決していく。
- 地域の外にいる新しい仲間と一緒にチームをつくるのが人口減少時代の地域づくり。



トークセッション 地域の関わり・つながりを考える



山本 統さん
むろづみ空想計画舎 代表

むろづみ空想計画舎を企業組合として立ち上げ。任意団体として室積半島の遊歩道の整備から活動を始めた。地域社会の課題解決、経済性、暮らしへの納得感の3つを両立させたい。活動のきっかけは、自分が地域を自分ごととして動く人になること。



平尾 祐子さん
やまぐち移住コンシェルジュ

普段は東京で移住相談対応。オンライン相談やオンライン移住ツアー。地域の方と、ちょっと関わってみたい人をつなぐ「関係人口プロジェクト」の紹介。関係人口、二地域居住、移住などいろいろなニーズを持って相談に来る方を地元の人につなぐ。

Q. 一緒に汗をかく＝プロセスへの参画をどのようにももらっている？

山本さん（以下、山）：知り合いに一人ずつ声をかけて集めていく。声をかけた3割が来てくれる。チラシをつくって募集まではやっていない。参加した人が知り合いを連れてきてくれる。

平尾さん（以下、平）：山本さんは、みんなが自由に自分のやりたいことをやれる環境、ゆるいつながりをつくる達人。

Q. 学生とつながるための機会がありますか？

田中さん（以下、田）：先生や研究室・サークルとつながる。先生もつながりを求めている。
山：任意団体をつくるという方法もある。「やっているんだ」ということが分かる。旗を立てる。

Q. 学生を、単なる労働力ととらえる人がいます。

山：学生さんには過度に期待しないようにしている。できることをやってもらう。

田：ボランティアは、その時・瞬間に力になってくれる人。関係人口は、つながりが大事。顔と名前を覚える関係をつくっていく。20・30代はつながりたい・関わりたいという人が多い。

山：レンタサイクル利用者に、名札をつけて周ってもらおうと思っている。

Q. 移住コンシェルジュとして、人と人としてつながる、相手のニーズにそった案内をするために気をつけていることは？

平：自治体職員は数年で異動するが、地域には顔が見える人や先輩移住者がいる。そういう方々の暮らしぶりから理想の暮らし像を見出す。県内自治体の移住担当者同士が良い関係で、協力し合っている。相談に来た方にいろいろな自治体を見てもらえる。たくさん見てもらうことを繰り返すうちに精度があがってくる。

田：移住者を生むのは地域の人たち。自治体は、信頼を活かして、頑張っている地域と移住者をつなぐことが役割。知らないことがすれ違いを生む。そこを翻訳・通訳する人がいる地域は強い。中立ではなく、両方の味方でいてくれる人。

Q. 関係人口も取り合いになってくる。どんな地域に関係人口が集まる、もしくは集まるべき？

Q. 関係人口が増えては減ってを繰り返し、活動が広がらない。

田：自分自身がまず楽しむこと。継続は常に課題だが、考えるべきは何を継続したいのか。プロジェクトの役割が終われば区切ることも大事。一度できたつながりを一生続けるのはお互いに辛い。移住・定住がしんどいと言われる所以。

Q. 関係人口が増えても、人口減少が進めば、基礎的サービスの衰退→人口減少のスパイラルに陥る。どう考えればよいか。

田：移住・定住と交流・観光も合わせた三本柱をバランスよく、役割分担・連携しながら。移住者も関係人口も仲間。地域のつながりに価値を感じる若い人は確実に増えている。「あなたが必要」という思いを可視化し、頑張りを伝え、声に出せば応えてくれる若い人はいる。頑張ってきたことを新しい仲間と一緒にやっていく。

